

H S K — なんれん —

# おとふけ

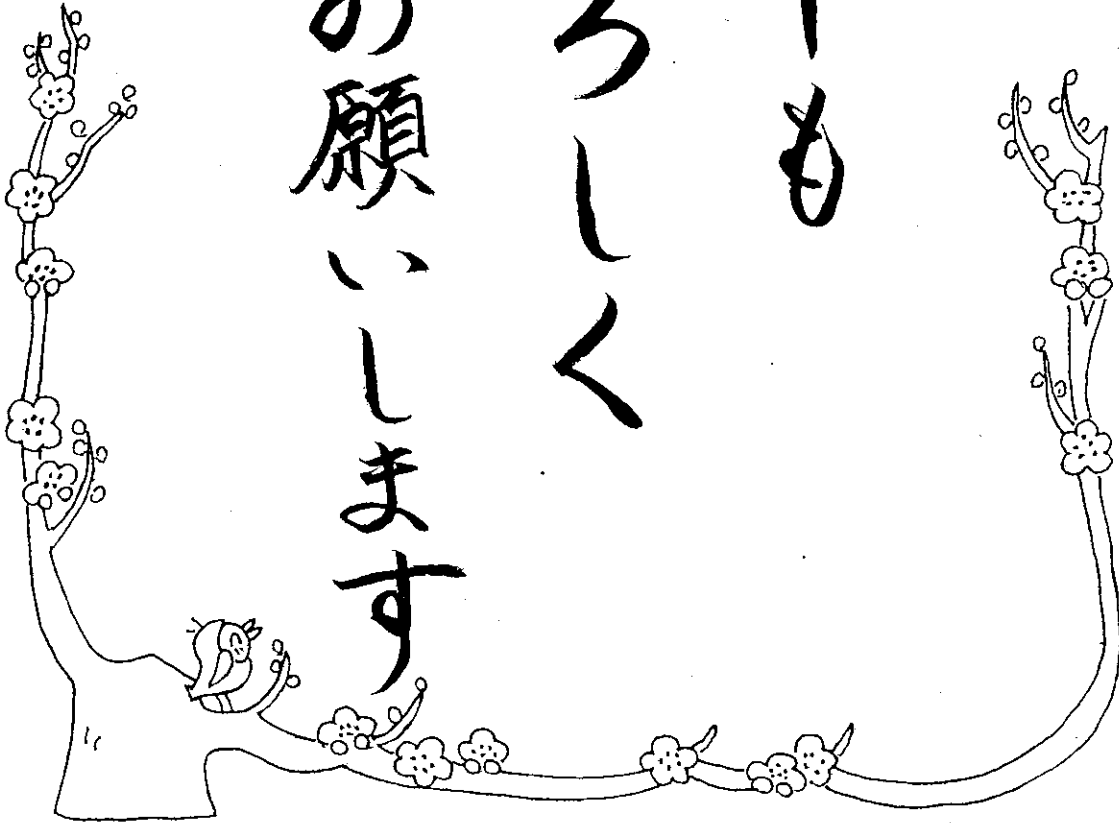
No. 40

昭和48年1月13日第三回第1次協同可  
H S K 通巻第323号  
1999年2月10日  
毎月10日発行 (1冊100円)  
(会費に含まれています)  
編集 財団法人北海道風物産普及課  
発行 北海道身体障害者団体  
定例発行協協会 (H S K)

# 今年も

# よろしく

# お願いします



# 保健・福祉に関する懇談会及相談会

主催 (財)北海道難病連音更支部

共催 北海道医療社会事業協会東支部

日時 1999年3月7日(日) 12:30~受付

懇談会 13:00~15:00

個人相談会 15:00~16:00

会場 音更町共栄コミセン 2階研修室

(木野西通17丁目 / TEL 30-4733)

参加費 無料

参加希望の方は直接会場へお越し下さい

相談員 音更町春木みどり保健婦

” 堀田昇 ソーシャルワーカー

北斗病院 高田康範 ソーシャルワーカー

” 西川昌慶 ソーシャルワーカー

難病連音更支部役員

問い合わせ先 難病連音更支部

TEL・FAX

## 1999年度支部総会のご案内

日時 4月11日(日) 13:00~16:00

会場 音更町共栄コミセン2階研修室3

申し込み×切 3月31日(水)  
支部事務局へ

## オク回春のリサイクルバザール開催について

日時 4月25日(日) 10:00~13:00

会場 音更町南中土幌児童館  
(東音更西2-25)

3月より準備始めます

ご協力下さい。

①品物を集めます(家具、電化製品、雑貨、衣類、スキー、ステート、本、その他)

②お手伝いに来て下さる方~バザール品の集荷、仕分け、修理、値段付、品物の搬入等当日を含めてご協力いただける方は事務局までお知らせ下さい。

## 第25回 難病患者・障害者と家族の全道集会参加の記

河東郡 会員 大久保 龍 雄

今年で25回を数える全道集会（登別大会）に初めて参加をしました。「全国どこにいても等しく高度な医療が受けられ、安心して闘病生活を送ることのできる社会、総合的な難病対策が確立される社会の実現」（集会アピール）を目ざして全道各地から多くの方々が登別の地に集い熱気溢れる感動の集会となりました。

8月1日、第一滝本本館のレセプション会場は、部会ごとに席を設け会員相互の交流が深められるよう配慮がされていましたが、メイン会場に参加者が入りきらず二つの会場で実施ということになったようです。ここでもボランティアの方々が活躍、会場内を飛び回っての奮闘ぶりには、全く頭の下がる思いで心から感謝をした次第です。

初参加のことでもあり、やや緊張して席に着きましたが、隣席を見るとかつて入院中にいろいろお世話になった、野村事務局長さんの名前がありほっと一安心、右席は部会の役員をされている牧野さんという誠に恵まれた環境？の中で、いろいろ示唆に富んだお話を聞くことができました。特に印象に残ったのは「体質的に薬の服用ができないという厳しくつらい面があるが、この病気との付き合いで大切なのは、気力を充実させ強い精神力を維持することにある。それは80パーセントかあるいはそれ以上を占めていると思いがんばっている。」という牧野さんのお話でした。野村事務局長さんは席の温まる暇もなく、会員の間を回り何くれとなくお世話をされていたので、近況報告程度で話は終わりとなりました。

8月2日、分科会と全体集会が行なわれました。雨の中、会場の西陵中学校に到着し予定より若干遅れての開始となりました。

分科会では自己紹介を行なった後、勉強会に入りました。講師は野村事務局長さんで「腰部交感神経節切除術」についてのお話为中心でした。患者さんの60パーセント強はこの手術を受けているということでした。

お話の内容は、①どんな症状のときに切除術を行なうのか。②最近の実施傾向。③切除術の内容。④術後に現れる問題点。など資料を用いて詳しく説明していただ

きました。

分科会には全道各地から会員の方々が参加されていましたが、自己紹介をお聞きしながらいろいろ考えさせられる面がありました。私よりずっと長期にわたっての闘病生活を送っている方や、もっとつらく苦しい思いをされた方が、それらをいかに克服してきたかというお話を聞いたときに「自分ももっともっとがんばらなくては。」と思い元気が出てきたように思えました。このことが今回参加しての一番の収穫だったかなあと、この稿を書きながら思っています。

もう一つは、極端な情報不足や、医療のレベルの問題等が原因で適切な医療を受けるまでにいろいろ遠回りをしているケースが多いということです。私にも苦い経験がありますので共感するものがありました。遠回りをするということは、単なる時間の浪費というだけではなく、患者はこの間に肉体的にも精神的にも大きなダメージを受ける結果となるわけです。「全国どこにいても等しく高度な医療が受けられること。」それは願望などでなく、早急に実現させるべきこととして私たちは積極的に行動しなければならないと痛感しました。

もっと時間があればと思いながら分科会を終了することになり、再会を約しての散会となりました。殆ど面識のない方が大部分だったにもかかわらず、旧知の方々と話しているような和やかな雰囲気、心の安まるひとときだったと実感しています。会場移動に時間をとられ、交流の時間がやや不足という思いはあったけれど「皆さんたくましく生きているなあ。来て良かった！」というのが私の率直な感想です。

午後は登別市民会館大ホールに会場を移し全体集会が行なわれました。

体験発表（患者・家族の訴え）の部で2名の方の発表がありました。発病時の苦痛の中からやがては強じんな精神力を確立していくプロセスが、淡々とした口調で語られ会場内に深い感銘を与えました。この中で、精神的な苦痛や孤独感から解放される大きな要因となったのが“患者の会・友の会であった”という発表がありました。仲間の輪を更に広げるために私たちは何をすべきか、という問題提起にもなっていたように私は受取りました。

記念講演は、日鋼記念病院の西村先生が「幸せを決める自分の心」という演題で話されました。この演題は相田みつお氏の作品から引用されたそうですが、講演の終わりに先生が朗読されましたので紹介したいと思います。

“しあわせは いつも じぶんのところが きめる”

“人生において 最もたいせつな時 それはいつでも いまです”

講演は素晴らしいものでしたが、特に「人間として生きる者には、常に病気、障害などの悩みはつきものです。これを各人がどのように受容していくかの心理過程で、人は幸福にもなり、不幸にもなると思います。」と述べられプラス志向で生きることの大切さを指摘されました。さらに今後の課題として「医療・保健・福祉の在り方も、医師バスターナリズムから受療者参加のチームへの転換が図られています。そのような視点に立って自己や家族のために、平等の立場で互いに心を開いて、チーム全員が信頼と満足を獲得するように精一杯の努力をしていただきたいと思います。」と話され、患者は医療サービスの改善を声を大にして言うべき時なのだ、という認識を持って欲しいと結ばれました。

集会には当初の予想をはるかに上回る参加者があり、盛会のうちに終了しました。全道集会だけではなく支部の行事にも初めての参加でしたが、登別までデラックスバスに揺られながら、15名の支部から参加の方々と温かい交流ができて本当に良かったと思っています。

さらには、今回ご一緒に参加されたご夫婦との新しいお付き合いも始まり、得ることの多かった集会参加となりました。また、医療保健制度・公費医療制度の後退動向に鑑み、患者会活動の重要性を再認識して、今後とも更なる患者会活動推進への一翼を担える一人になりたいものと思いました。

1998年10月10日



レセプション一景  
第一滝本本館「原始林」

福祉の店「どんぐり」を休みます

春のリサイクルバザー 準備と後片づけのため

3月6日(土)～5月2日(日)まで休みます。

5月8日からお店始めます。

差し上げます

会員の方より歩行器1台を寄贈いただきましたので、必要とされる方に無料で差し上げます。(会員優先)

◎申し込みメ切 2月28日(日)

※希望者多数の時は抽選とさせていただきます

(何度か使用していますが  
新品同様です)

**V支柱入り安全歩行器**



(非課税)

7720 63573480 20,600円

全幅58.4×奥行43.8cm

高さ81.3～91.4cm 重量：約2.4kg

7721 63573490 20,600円

全幅58.4×奥行42.5cm

高さ71.1～81.3cm 重量：約2.3kg

7720・7721とも グリップ内幅41.8cm

●V支柱構造で堅牢です。

●高さ調節ができます。

特定疾患医療受給者証の継続申請は  
済みましたか。

申請期限は 2月26日です

不明な点がありましたら

帯広保健所保健予防課保健予防係

TEL 24-3111 内線3641か3642

---

HSK・なんれん おとふけ

編集人 (財)北海道難病連音更支部 穀内さかえ  
音更町 TEL・FAX

昭和48年1月13日第3種郵便物認可

1999年2月10日発行 HSK通巻323号

発行人 北海道身体障害者定期刊行物協会 細川美子  
札幌市西区八軒8条東5丁目4-18

---